

～この子の未来に明かりをともす～

「こども未来課」創設



社会を揺るがす少子化

国が進めている「まち・ひと・しごと創生」では、人々が安心して生活を営み、子どもを生み育てられる社会環境を作り出すことが大切だとされています。その中で取り上げられている少子化は、本市だけではなく全国的な問題であり、社会経済の根幹を揺るがしかねないものといわれています。

子が宝なら親も宝

厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」によると、一人の女性が一生に産む子どもの平均数（合計出生率）は、静岡県内の市町村の場合、昭和50年代は2.0を超える水準でした。しかし、昭和60年以降は低

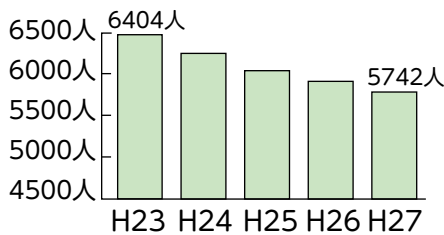
下が続ぎ、平成16年ごろには過去最低の1.37まで落ち込みました。

市の状況は、昭和63年～平成4年の間、旧浜岡町が2.03、旧御前崎町が1.88と県内でも高い水準だったものが、平成20年～24年では1.72となりました。

出生数は、平成23年度の326人をピークに減少傾向にあり、平成26年度は276人となっています。

私たちにとって、子どもは次世代社会の担い手であり、御前崎市の大切な宝です。その子どもを安心して出産し、育てる場を提供するなどの政策を推進するため、平成27年4月、市役所に「こども未来課」が誕生しました。

御前崎市の人口推移 (0～18歳まで)



(参考：市人口集計)

一人の女性が一生に産む子どもの平均数

	御前崎市	
	旧浜岡町	旧御前崎町
S63～H4年	2.03	1.88
H20～24年	1.72	

(参考：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」)